



問題提起

私たちが、日常生活で使うモノはすべてどこかの工場で生産されたものであるが私たちの日常生活では、工場の現場の人たちが仕事に取り組んでいる様子を見ることができず、まったく知らない状態である。これらの、問題点は用途地域のシステムによって生活空間と生産空間が分離してしまっただけで、1つの原因と考えられる。現在、工業地域と住居地域の境界は、道を1本下れるだけで車庫裏やアタビビがまったくな道となっている。工業地域は一般の人々にはまず立ち寄ることがなく、モノづくりの様子、魅力的な風景であるにその様子が工業地域内で見えてしまっている。目的、身近にあった町工場であったが、これからの町工場の存在は、感覚的に私たちの日常生活からは遠いものになってしまうのではない。そこで、モノづくりが行われる町工場と生活空間である住居の関係を近づける建築を提案する。



町工場とは
町の中心にある小規模な工場のこと。従業員が少なく、高度な技術を持っている場合もある。新築や増築などの大規模な工場は、郊外や製造工場が集中する工業団地や工業団地内に設けられることが多い。町工場は小規模な工場であり、小規模に設けられることが多い。

用途地域とは
都市計画の中で、土地や建物の用途に一定の制限を設け、各用途に合った土地利用を促している。工業団地や住宅団地などがある。用途地域は、都市計画の中で、各用途に合った土地利用を促している。工業団地や住宅団地などがある。用途地域は、都市計画の中で、各用途に合った土地利用を促している。工業団地や住宅団地などがある。

機能

- 集合住宅・町工場集合体・地域公共施設
- 住居空間：一般賃貸住宅・コモンリビング・コモンランドリ・住民用駐車場
- 工場空間：貸工場・共同ストックヤード・会議室・民衆用駐車スペース
- 地域公共施設：カフェ・レストラン・共用ラウンジ・工作教室・多目的学習スペース
街角アトリウム・街角ギャラリー・運動広場・店舗・貸店舗・共同調理場

工場関係者だけでなく一般の人々もモノづくりに近い形で居住できるような計画する。また、地域の公共施設を併設し、地域住民も当該施設に立ち寄りやすいよう演出をする。

用途地域境界の問題点

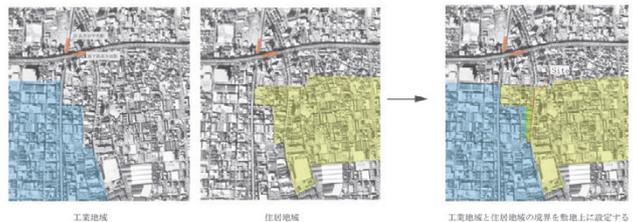
- 一般的に町工場が集まる工業地域と住居地域の境界では、次のような問題点が存在している
- ・住居地域に裏側を向けて建つ巨大なボリュームによる威圧感
 - ・住居と工場の裏側どうしが連続して建っていることによる騒音や振動問題
 - ・住居地域の道にも搬入・搬出のための大型車両が通行することによる歩行者の危険性
 - ・道路に存在するが、工場空間で何が行われているのかわからない

工業地域と住居地域の境界に建つプロトタイプとなるようなモデルが必要であると考え



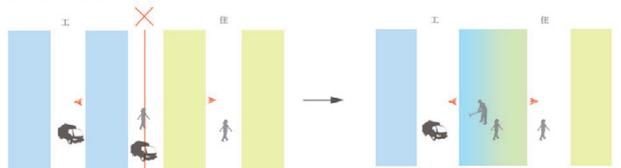
提案

生活空間と生産空間の分岐点となってしまう用途地域の境界のあり方から見直し工業地域と住居地域をつなぐ建築を提案する。工業地域と住居地域のそれぞれの道路の性質を考慮し、用途地域の境界を道路上で線を引きのではなく敷地の中央に持つ。この操作によりできる2つの異なる敷地に面した敷地に工業地域と住居地域のアクティビティをつなぐプロトタイプとなるような建築を計画する。



1つの敷地に2つの用途をレイヤー状に重ねてそれらをつなぐことで現在の両面と調和し、敷地中央に2つの地域の性質のヒューマンスケールなアクティビティがふれ出す空間ができる。

用途地域の線引きの位置について



道路上で分断してしまう・・・
それぞれ道路に対して表裏をつくってしまい、間の道路は裏を向けられアクティビティが交わることがなくなる。
住居地域に面して工業地域の搬入・搬出口の性質が出てくるため、工業地域のヒューマンスケールな性質は機能しなくなる。
敷地上で分断する・・・
搬入・搬出口を工業地域側に配置すれば、敷地中央にお互いの地域のヒューマンスケールな部分を近づけることができる。工場のヒューマンスケールな部分の変換が住居地域側に近づき、グラデーション状にお互いの地域が近づける空間をつくることが可能になる。

「町の裏と表をつなぐ場所ー工業地域と住居地域の境界の提案」 皆己 貴彦



「町の裏と表をつなぐ場所ー工業地域と住居地域の境界の提案」皆己 貴彦

